

# 文学部国文学国語学科 カリキュラム・マップ(2022年度入学生)

ディプロマ・ポリシー	次のような知識や能力を備えた学生に学士(国文学)の学位を授与します。					
	①論理的に思考する力を身につける(思考) ②日本の文学や言語に関する知識を身につける(知識) ③コミュニケーション能力を身につける(態度) ④新たなものを生み出す創造力を身につける(創造) ⑤新たな知見の発信力を身につける(行動)					

科目名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
						①	②	③	④	⑤
国文学基礎演習1	演習	1	2	古典作品のさまざまな形態や、それを原文で読むための知識を修得する。さらに、古典作品を読みこなすための研究方法を理解し、それを解決するという作業をおこなう。こうした一連の作業をおこなって、古典文学研究の基本的な技能をやしなう。	1.古典文学を対象とする研究をおこなうために必要な基礎知識を修得する。 2.対象となる作品から問題点を発見、調査し、調査した内容を資料にまとめて発表するとともに、論理的な形式で文書にまとめることができる。	○	◎	○		
国文学基礎演習2	演習	1	2			○	◎	○		
国文学概論1	講義	1	2	国文学がどのような学問であるかを学ぶ。各ジャンルについての基礎的知識、時代区分の原理や研究方法、作品成立当時の政治や生活等についての知識を身につける。	1.国文学の本質と国文学研究の目的について理解を深める。 2.ジャンルに応じた基本的な研究方法と基礎的知識を身につける。	◎	◎			
国文学概論2	講義	1	2	国文学を学んでゆくために必須の、基礎的な知識や方法を学ぶ。とくに国文学の礎となった国文学と国学者、作品における主題と構想、文芸思潮、典拠・出典について学ぶ。	1.国文学と国学者の業績について理解する。 2.作品における主題と構想、文芸思潮、典拠・出典について、基礎的な知識や方法を習得する。	◎	◎			
上代文学講読1	演習	1・2	2	上代の作品を読むための基礎的な知識や方法について学ぶ。萬葉集前期の歌人である、額田王、柿本人麻呂高市黒人等の作品を講読する。合わせて、古事記についての基礎的な知識や方法を学ぶ。	1.上代の作品を読むための基礎的な知識や方法を習得する。 2.学んだ知識や方法を用い、作品の作品読解を行い、かつ、それを資料にまとめて発表することが出来る。	○	◎	○		
上代文学講読2	演習	1・2	2	上代の作品を読むための基礎的な知識や方法について学ぶ。萬葉集前期の歌人である、山辺赤人、山上憶良大伴旅人、坂上郎女等の作品を講読する。合わせて、風土記についての基礎的な知識や方法を学ぶ。	1.上代の作品を読むための基礎的な知識や方法を習得する。 2.学んだ知識や方法を用い、作品の作品読解を行い、かつ、それを資料にまとめて発表することが出来る。	○	◎	○		
中古文学講読1	演習	1・2	2	『伊勢物語』を精読する。作品の誕生した時代背景を検討したり、翻刻、資料収集、語義の調査等を行うことにより、その作品の持つ特徴や問題点についてレジュメを作成し発表する。	1.中古作品を読むのに必要な基礎的知識と読解力を習得する。 2.変体仮名を読む能力を養い、日本文化の特有性について理解を深める。	○	◎	○		
中古文学講読2	演習	1・2	2	『伊勢物語』を精読する。読み解くための資料を博捜し、その作品と関連のある話柄、表現、構成をもつ他の作品を調べその相異点等を口頭で発表する。	1.中古作品を読むのに必要な基礎的知識と読解力を習得する。 2.資料を収集精査し、自分の意見をまとめ、その結果を発信する能力を身につける。	○	◎	○		
中世文学講読1	演習	1・2	2	中世の古典作品を、受講生による調査・発表によって精読する。古典作品を適切に読解し、関連資料を調べながら、自説を組み立てるための基礎的な手法を学ぶ。	1.中世の古典作品を読むための基礎的な読解力を習得する。 2.自ら関連する資料を調べ、時代背景を学んで、資料を作成し、口頭で自説を発表する力を身につける。	○	◎	○		
中世文学講読2	演習	1・2	2	中世の古典作品を、受講生による調査・発表によって精読する。古典作品を適切に読解し、関連資料を調べながら、自説を組み立てるための基礎的な手法を学ぶ。	1.中世の古典作品を読むための基礎的な読解力を習得する。 2.自ら関連する資料を調べ、時代背景を学んで、資料を作成し、口頭で自説を発表する力を身につける。	○	◎	○		
近世文学講読1	演習	1・2	2	近世期に成立した文学作品を精読する。また、時代背景や文化などに目配せしつつ、その作品の特質について考察する。	1.対象となる作品の精読をおこなって、近世期の作品を読むための基礎知識を修得する。 2.得られた知識をもとに、対象となる作品の解釈について自身のことばで説明できる。	○	◎	○		
近世文学講読2	演習	1・2	2	近世期に成立した文学作品を精読する。また、時代背景や文化などに目配せしつつ、その作品の特質について考察する。	1.対象となる作品の精読をおこなって、近世期の作品を読むための基礎知識を修得する。 2.得られた知識をもとに、対象となる作品の解釈について自身のことばで説明できる。	○	◎	○		
近代文学講読1	演習	1・2	2	日本の近代文学を代表する作家の短編小説を、作品に用いられた表現の機能や時代背景との関連に留意しながら、受講生による調査・発表によって精読する。	1.近代の文学作品を読むための基礎的な知識と方法を習得する。 2.学んだ知識や方法を用いて作品の言葉や時代背景について調査を行い、資料を作成して口頭で発表することができる。	○	◎	○		
近代文学講読2	演習	1・2	2	日本の近代文学を代表する作家の短編小説を、作品に用いられた表現の機能や時代背景との関連に留意しながら、受講生による調査・発表によって精読する。	1.近代の文学作品を読むための基礎的な知識と方法を習得する。 2.学んだ知識や方法を用いて作品の言葉や時代背景について調査を行い、資料を作成して口頭で発表することができる。	○	◎	○		
上代文学特論1	講義	2	2	和歌・歌謡における修辭についての知識と、古事記・日本書紀についての基礎的な知識を学び、その上で古事記・日本書紀の歌謡を読解する。	1.和歌・歌謡の修辭についての知識を習得する。 2.古事記・日本書紀とその歌謡についての知識と読解力を習得する。	◎	◎			

科 目 名		授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
							①	②	③	④	⑤
ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(国文学)の学位を授与します。 ①論理的に思考する力を身につける(思考) ②日本の文学や言語に関する知識を身につける(知識) ③コミュニケーション能力を身につける(態度) ④新たなものを生み出す創造力を身につける(創造) ⑤新たな知見の発信力を身につける(行動)									
上代文学特論2	講義	2	2	2	萬葉集の巻々がそれぞれに持っている特色について学び、それを踏まえて、個々の萬葉集歌を読解する方法を学ぶ。	1.萬葉集の巻々の特色を理解する。 2.その理解の上に、萬葉集の個々の作品についての読解力を習得する。	◎	◎			
中古文学特論1	講義	2	2	2	中古の和歌や歌集を研究するための基礎力をつける。文献学的研究・注釈学的研究等を通じて、勅撰和歌集の成立や構造、歌語や表現、伝授と影響等の問題を考察する。	1.和歌の修辭法や歌ことば等についての基礎的知識を身につける。 2.中古の和歌や歌集の特徴について、分析・研究するための知見を深める。	◎	◎			
中古文学特論2	講義	2	2	2	中古の和歌や歌集を研究するための基礎力をつける。文献学的研究・注釈学的研究等を通じて、勅撰和歌集の成立や構造、歌語や表現、伝授と影響等の問題を考察する。	1.和歌文学を研究するための基礎的知識を身につける。 2.勅撰和歌集の構造や表現の特徴を理解し、分析・研究するための知見を深める。	◎	◎			
中世文学特論1	講義	2	2	2	中世の説話や伝説を読解し、そのような説話や伝説がなぜその時代に生まれたのか、周辺資料から考察する。講義において提示された研究方法を参考にして受講生がそれぞれの自説を展開する。	1.説話や伝説をうみだす地盤となった時代や文化に対する知識を習得する。 2.周辺資料を読解しながら、自ら推論を立てて自説を展開する力を身につける。	◎	◎			
中世文学特論2	講義	2	2	2	中世の説話や伝説を読解し、そのような説話や伝説がなぜその時代に生まれたのか、周辺資料から考察する。講義において提示された研究方法を参考にして受講生がそれぞれの自説を展開する。	1.説話や伝説をうみだす地盤となった時代や文化に対する知識を習得する。 2.周辺資料を読解しながら、自ら推論を立てて自説を展開する力を身につける。	◎	◎			
近世文学特論1	講義	2	2	2	近世期に出版された地誌の画像情報をてがかりに、そこに描かれた事物について読み解く。また、文学作品との影響関係や地誌類の文学的価値をさぐるとともに、文字情報と画像情報との関連性について考察する。	1.対象となる作品の画像情報をおとして、近世期の文化的状況とその特質を読み取る方法を修得する。 2.画像情報からみえてくるテキスト解釈の可能性を自身のことばで説明できる。	◎	◎			
近世文学特論2	講義	2	2	2	近世期に出版された地誌の画像情報をてがかりに、そこに描かれた事物について読み解く。また、文学作品との影響関係や地誌類の文学的価値をさぐるとともに、文字情報と画像情報との関連性について考察する。	1.対象となる作品の画像情報をおとして、近世期の文化的状況とその特質を読み取る方法を修得する。 2.画像情報からみえてくるテキスト解釈の可能性を自身のことばで説明できる。	◎	◎			
近代文学特論1	講義	2	2	2	明治から大正期の作家・思想家たちが、異なる文化をどのように受け止め自らの表現をつくりだしたのか、国家間の政治的・経済的関係や渡航の動機・条件などに注目しながら考察する。	1.日本の近代文学が異なる文化との交流によって形作られてきたことを知る。 2.習得した知識や研究方法を生かして論理的に考察を深め、それを口頭発表や文章で伝えることができる。	◎	◎			
近代文学特論2	講義	2	2	2	大正から昭和の作家・思想家たちが、異なる文化をどのように受け止め自らの表現をつくりだしたのか、国家間の政治的・経済的関係や渡航の動機・条件などに注目しながら考察する。	1.日本の近代文学が異なる文化との交流によって形作られてきたことを知る。 2.習得した知識や研究方法を生かして論理的に考察を深め、それを口頭発表や文章で伝えることができる。	◎	◎			
国文学演習(上代)1	演習	3	2	2	人麻呂作歌と人麻呂歌集歌を対象とし、本文校訂、注釈、読解鑑賞の知識や方法を学び、その上で作品を精読し、それをレジュメにまとめ発表する方法を学ぶ。	1.本文校訂、注釈、読解鑑賞の知識や方法を身につける。 2.その知識や方法によって作品精読の力を習得する。 3.調査し考察した内容を、レジュメにまとめ発表することができる。	○	○	◎	◎	
国文学演習(上代)2	演習	3	2	2	萬葉集歌を対象とし、本文校訂、注釈、読解鑑賞の知識や方法を学び、その上で作品を精読し、それをレジュメにまとめ発表する方法を学ぶ。	1.本文校訂、注釈、読解鑑賞の知識や方法を身につける。 2.その知識や方法によって作品精読の力を習得する。 3.調査し考察した内容を、レジュメにまとめ発表することができる。	○	○	◎	◎	
国文学演習(中古)1	演習	3	2	2	中古文学研究における問題を解決する知見を身につけ、その研究の方法と原理を習得する。作品の精読・分析により、テーマを設定し、資料を収集精査し、自分独自の論を構築する。また、その結果を発表する能力を身につける。	1.問題点を見つけ、情報の収集・調査により独自の論を構築する力をやしなう。 2.持論を的確に発表するプレゼンテーション能力を身につける。 3.自己の見解をクオリティの高い文章で書く能力を習得する。	○	○	◎	◎	
国文学演習(中古)2	演習	3	2	2	中古文学研究における問題を解決する知見を身につけ、その研究の方法と原理を習得する。作品の精読・分析により、テーマを設定し、資料を収集精査し、自分独自の論を構築する。また、その結果を発表する能力を身につける。	1.問題点を見つけ、情報の収集・調査により独自の論を構築する力をやしなう。 2.持論を的確に発表するプレゼンテーション能力を身につける。(3) 自己の見解をクオリティの高い文章で書く能力を習得する。	○	○	◎	◎	
国文学演習(中世)1	演習	3	2	2	鎌倉時代の説話集『十訓抄』から、発表担当者が一つ話を選び、周辺資料や時代背景を調べながら、その説話から何がいえるのかを考察し発表する。その発表内容に説得力があるかどうか、発表を聞いた受講生と、発表者との間でディスカッションを行い、その成果をレポートにまとめる。	1.対象となる作品を正確に理解し、その理解をうまく他者に伝えるための技術を習得する。 2.他の受講生とのディスカッションをおとして、自説を鍛え、より説得力をもって展開できるようになる。	○	○	◎	◎	

科 目 名		授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
							①	②	③	④	⑤
ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(国文学)の学位を授与します。 ①論理的に思考する力を身につける(思考) ②日本の文学や言語に関する知識を身につける(知識) ③コミュニケーション能力を身につける(態度) ④新たなものを生み出す創造力を身につける(創造) ⑤新たな知見の発信力を身につける(行動)									
国文学演習(中世)2	演習	3	2	鎌倉時代の説話集『十訓抄』から、発表担当者が一つ話を選び、周辺資料や時代背景を調べながら、その説話から何がいえるのかを考察し発表する。その発表内容に説得力があるかどうか、発表をきいた受講生と、発表者との間でディスカッションを行い、その成果をレポートにまとめる。	1.対象となる作品を正確に理解し、その理解をうまく他者に伝えるための技術を習得する。 2.他の受講生とのディスカッションをとおして、より説得力をもって自説を展開する力を身につける。	○	○	◎	◎		
国文学演習(近世)1	演習	3	2	近世前期に成立した文学作品を精読する過程で浮上する問題点について、担当者が調査・分析し、報告する。また、それぞれの報告内容について、聴講者からの質疑・批判と、それに対する担当者からの回答・反論をおこなう。さらに、報告した内容を再検討し、客観的事実にもとづく文書を作成する。こうした一連の作業を複数回おこなうことで、批判的なものごとの捉え方とそれを他者に伝える技能をやしなう。	1.対象となる作品を正確に理解し、その理解をうまく他者に伝えるための技術を習得する。 2.他の受講生とのディスカッションをとおして、より説得力をもって自説を展開する力を身につける。	○	○	◎	◎		
国文学演習(近世)2	演習	3	2	近世後期に成立した文学作品を精読する過程で浮上する問題点について、担当者が調査・分析し、報告する。また、それぞれの報告内容について、聴講者からの質疑・批判と、それに対する担当者からの回答・反論をおこなう。こうした一連の作業を複数回おこなうことで、批判的なものごとの捉え方とそれを他者に伝える技能をやしなう。	1.近世期の文学作品を対象とする研究をおこなうための知識や方法を修得する。 2.自身の力で問題点を発見し、それについて調査・分析、報告することができる。 3.報告内容を論理的な形式で文書にまとめることができる。	○	○	◎	◎		
国文学演習(近代)1	演習	3	2	近代の文学テクストを研究するために必要な基礎的作業を確認するとともに、対象に応じた様々な研究方法を知る。その上で、近代を代表する作家たちの短編小説を題材に、みずからの関心に沿って独創性ある着想を論理的に展開することを試みる。	1.作品に応じて様々な研究方法があることを知る。 2.様々な意見を理解して柔軟に思考し、それを口頭で伝えることができる。 3.研究史を理解し、自らの着想を調査・分析の上論理的に文章にまとめることができる。	○	○	◎	◎		
国文学演習(近代)2	演習	3	2	近代の文学テクストを研究するために必要な基礎的作業を確認するとともに、対象に応じた様々な研究方法を知る。その上で、近代を代表する作家たちの短編小説を題材に、みずからの関心に沿って独創性ある着想を論理的に展開することを試みる。	1.作品に応じて様々な研究方法があることを知る。 2.様々な意見を理解して柔軟に思考し、それを口頭で伝えることができる。 3.研究史を理解し、自らの着想を調査・分析の上論理的に文章にまとめることができる。	○	○	◎	◎		
古典文学史1	講義	2・3	2	具体的に作品に触れながら、古典文学における散文学史について、時代やジャンルにおける流れを学び、各々の作品が誕生した歴史的背景や周辺事情を理解する。特に物語や随筆について、作者や作品が後代に与えた影響等を考察する。	1.散文学の史的展開についての知識を身につける。 2.各時代の散文学作品読み、創作された背景や周辺事情を学ぶ。	◎	◎				
古典文学史2	講義	2・3	2	具体的に作品に触れながら、古典文学における韻文学史について、時代やジャンルにおける流れを学び、各々の作品が誕生した歴史的背景や周辺事情を理解する。特に和歌文学を中心に、歌集、歌人、歌壇等の問題を、伝統と革新という視点に立って考察する。	1.韻文学の史的展開についての知識を身につける。 2.各時代の韻文学の作品を読み、創作された背景や周辺事情を学ぶ。	◎	◎				
近代文学史1	講義	2・3	2	明治時代初期から大正時代に至る時期の日本の文学の流れを、具体的な作品に触れながら、時代背景との関係に留意しつつ理解する。	1.明治時代初期から大正時代までの日本の文学の概略を知る。 2.様々な時代の作品を、表現の特徴や時代背景に注目しながら読むことができるようになる。	◎	◎				
近代文学史2	講義	2・3	2	大正時代後期から現代に至る時期の日本の文学の流れを、具体的な作品に触れながら、時代背景との関係に留意しつつ理解する。	1.大正時代後期から現代までの日本の文学の概略を知る。 2.様々な時代の作品を、表現の特徴や時代背景に注目しながら読むことができるようになる。	◎	◎				
国語学基礎演習1	演習	1	2	国語学における基礎的・基本的内容とデータの収集や集計について、コンピュータを活用した効率的な方法について学ぶ。また、最新の研究成果を概観することで、現在の研究の流れを理解し卒業論文への意識やレポート作成時の技術的側面を身につける。	1.国語学の基礎的な知識をふまえ、データの集計など、分析方法を身につける。 2.各自の問題意識に従い、考察を行い、分析結果を論理的な形でレポートにまとめることができる。	○	◎	○			
国語学基礎演習2	演習	1	2	国語学における基礎的・基本的内容とデータの収集や集計について、コンピュータを活用した効率的な方法について学ぶ。また、最新の研究成果を概観することで、現在の研究の流れを理解し卒業論文への意識やレポート作成時の技術的側面を身につける。	1.国語学の基礎的な知識をふまえ、データの集計など、分析方法を身につける。 2.各自の問題意識に従い、考察を行い、分析結果を論理的な形でレポートにまとめることができる。	○	◎	○			
国語学概論1	講義	1	2	国語学の諸分野についての基礎知識を獲得し、とくに音韻・音声や音調、および語彙に関する研究方法やそれらの分野に特有の用語法を身につける。	1.日本語の音韻および音声の体系を理解する。 2.日本語の音調のメカニズムを理解する。 3.日本語の語彙の特徴を理解する。	◎	◎				
国語学概論2	講義	1	2	国語学の諸分野についての基礎知識を獲得し、とくに文章史や方言、待遇表現に関する研究方法やそれらの分野に特有の用語法を身につける。	1.日本語の文章の史的展開について理解する。 2.日本語の方言および方言研究について理解する。 3.日本語の敬語法の特徴を理解する。	◎	◎				
国語学特論(言語構造)1	講義	2	2	日本語文法に関する先行学説を分析してその特徴を明らかにすることを通して、文法研究の本質を理解し、文法現象について考察する姿勢を自覚する。また、文法研究史についての知識を得る。	1.著名な文法研究者について、その言語観と文法理論の特徴との関係を理解する。 2.文法研究の史的展開について知見を深める。	◎	◎				

科 目 名		授業形態	配当 年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
							①	②	③	④	⑤
ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(国文学)の学位を授与します。 ①論理的に思考する力を身につける(思考) ②日本の文学や言語に関する知識を身につける(知識) ③コミュニケーション能力を身につける(態度) ④新たなものを生み出す創造力を身につける(創造) ⑤新たな知見の発信力を身につける(行動)									
国語学特論(言語構造)2	講義	2	2	日本語のさまざまな文法現象を取りあげて、そのような現象の背後にある要因に迫り、それが文法体系の構築にとってどのような意義を持つものかを見きわめる。	1.日本語のさまざまな文法現象について正確に記述する。 2.その現象が、他の文法現象とどのように関連するかについて理解する。	◎	◎				
国語学特論(言語運用)1	講義	2	2	曖昧性・格・ヴォイス・修飾構造・テンス・アスペクトといった、日本語法の各領域について取り上げ、日本語の基本的な構造についての理解を深める。	1.日本語文法の各分野についての理解を深める。 2.文・非文を使用した日本語の分析方法を身につけ、各自の関心にしたがって論理的に議論を組み立てることができる。	◎	◎				
国語学特論(言語運用)2	講義	2	2	認知言語学の観点から「メタファー」を取り上げ、言語・感情・社会・時間といった諸領域における、概念メタファーの構造と機能について考察する。	1.認知言語学の立場と方法を理解する。 2.概念メタファーの分析方法を理解し、各自の関心にしたがって論理的に分析することができる。	◎	◎				
国語学特論(言語実態)1	講義	2	2	現代日本語の機能語を対象として、先行研究を参照しつつ、その実際の使用法を記述し分析して、その固有の特徴についての理解を深める。	1.現代日本語の機能語について、その実態を理解する。 2.各機能語の用法やニュアンスについて理解する。	◎	◎				
国語学特論(言語実態)2	講義	2	2	現代日本語の特徴的な表現形式を対象として、その分布の実態などについての知見から、そうした形式にあらわれる表現心理について理解する。	1.現代日本語を特徴づけるような諸形式について、その実態を理解する。 2.各形式のニュアンスや表現に与える特徴について理解する。	◎	◎				
国語学演習(言語構造)1	演習	3	2	日本語の文法現象について、とくに各品詞の機能や述語表現に関してその先行研究を分析して、それらの現象の本質を理解する。	1.先行研究を博覧して、その議論の展開を理解する。 2.文法現象の本質について理解を深める。	○	○	◎	◎		
国語学演習(言語構造)2	演習	3	2	日本語の文法現象について、とくに連体および連用の装定表現や慣用句などに関してその先行研究を分析して、それらの現象の本質を理解する。	1.先行研究を博覧して、その議論の展開を理解する。 2.文法現象の本質について理解を深める。	○	○	◎	◎		
国語学演習(言語運用)1	演習	3	2	日本語初級の留学生の作文に見られる「誤用」を取り上げ、何故それが間違っているといえるのかを考察することを通して、日本語の持つ構造を考える。	1.留学生の初歩的な作文の誤用を通して、日本語の構造を理解する。 2.誤用という現象から、他の学生と議論しつつその原因を分析する力をつける。	○	○	◎	◎		
国語学演習(言語運用)2	演習	3	2	日本語中級の留学生の作文に見られる「誤用」を取り上げ、何故それが間違っているといえるのかを考察することを通して、日本語の持つ構造を考える。	1.ある程度熟達した留学生の作文の誤用を通して、日本語の構造を理解する。 2.誤用という現象から、他の学生と議論しつつその原因を分析する力をつける。	○	○	◎	◎		
国語学演習(言語実態)1	演習	3	2	言語地理学および社会言語学の観点から日本語の方言を取りあげ、言語データの収集と集計に関するノウハウを身につける。	1.言語地理学と社会言語学について理解する。 2.実際に言語データを収集し集計する技能を身につける。	○	○	◎	◎		
国語学演習(言語実態)2	演習	3	2	言語地理学および社会言語学の観点から日本語の方言を取りあげ、言語データの分析方法や、分析結果の解釈に関する知識と技能を身につける。	1.言語地理学と社会言語学について知見を深める。 2.実際の言語データを分析してその背後にある要因を解釈する。	○	○	◎	◎		
漢文学基礎演習1	演習	1	2	漢文の構造について理解し、返り点や送り仮名の基本を会得するとともに、頻出語法に関する知識を深め、中国古典文や日本漢文を読解するための基礎力を身につける。	1.返り点や送り仮名、頻出語法についての知識・技能を獲得する。 2.中国古典文や日本漢文を読解する。	○	◎	○			
漢文学基礎演習2	演習	1	2	著名な中国の古典を題材として、日中の注釈書を多く調べて比較検討しながら、訓読のしかたや鑑賞のしかたを学び、漢文学史についても知識を深める。	1.注釈書を丹念に調べて漢文学作品を訓読する。 2.作品について理解し、深い次元で鑑賞する。	◎	◎				
漢文学特論1	講義	2	2	著名な中国の古典を題材として、日中の注釈書を多く調べて比較検討しながら、訓読のしかたや鑑賞のしかたを学び、漢文学史についても知識を深める。	1.注釈書を丹念に調べて漢文学作品を訓読する。 2.作品について理解し、深い次元で鑑賞する。	◎	◎				
漢文学特論2	講義	2	2	著名な中国の古典を題材として、日中の注釈書を多く調べて比較検討しながら、訓読のしかたや鑑賞のしかたを学び、漢文学史についても知識を深める。	1.注釈書を丹念に調べて漢文学作品を訓読する。 2.作品について理解し、深い次元で鑑賞する。	◎	◎				
古典文法1	演習	3	2	古代日本語における文法現象について知見を深める。とくに用言の活用体系を理解し、未然形および連用形承接の助動詞について、その用法を整理する。	1.各文法現象について詳細に理解し会得する。 2.各文法現象の本質について理解する。	○	◎	○			
古典文法2	演習	3	2	古代日本語における文法現象について知見を深める。とくに終止形承接の助動詞や各助詞類について、その用法を整理する。また、敬語法についても分析する。	1.各文法現象について詳細に理解し会得する。 2.各文法現象の本質について理解する。	○	◎	○			
国語表現法1	演習	2	2	インタビュー記事・辞書の原稿・広告のコピー・俳句・随筆・小説など、様々なジャンルの文章を創作する。それを通して、各ジャンルの多様な特性を分析し、また実作を通じて、「書く」とはどのような作業であるのかを理解する。	1.さまざまな文章ジャンルの創作を通して、各ジャンルの特性を理解する。 2.実際に書く作業を通して、創作の困難と喜びを理解する。	○	○	◎	◎		
国語表現法2	演習	2	2	短編小説の創作に取り組むことにより、視点・プロット・メタファー・象徴といった、小説技術を深く理解する。	1.小説の技術にいろいろのものがあつたことを理解し、実作に生かすことができる。 2.長い作品を最後まで書くことで、小説の構造的性質を理解する。	○	○	◎	◎		

ディプロマ・ポリシー		次のような知識や能力を備えた学生に学士(国文学)の学位を授与します。					ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
		①論理的に思考する力を身につける(思考) ②日本の文学や言語に関する知識を身につける(知識) ③コミュニケーション能力を身につける(態度) ④新たなものを生み出す創造力を身につける(創造) ⑤新たな知見の発信力を身につける(行動)									
科 目 名	授業形態	配当年次	単 位	授業の主題	授業の到達目標	①	②	③	④	⑤	
書道(書写を中心とする)	実習	2	1	書写教育の観点から、用具・用材に関する知識や姿勢、筆運びの基本を身につけ、楷書と行書についてその特徴を学ぶとともに、実際に執筆練習を行なう。	1. 書写に関する基本的な知識と技能を獲得する。 2. 書写指導者としての資質と態度を身につける。		○	○	◎		
国語科指導法1	講義	3	2	学習指導要領に即し、中学・高等学校国語科の教育課程の理論と実践を学ぶ。また、教材選択、学習指導案作成、模擬授業といった実践をとおして国語科の授業ができる基礎力をやしなひ、指導方法の技能を身につける。	1.国語科教育の目的や原理を学び、指導法の原理と実際を理解する。 2.教科書に掲載された言語教材等を分析して、教材化する能力を身につける。 3.作成した指導案にしたがい、的確な発問や充実した板書により、模擬授業を進めることができる。	○	◎	◎			
国語科指導法2	講義	3	2	学習指導要領に即し、中学・高等学校国語科の教育課程の理論と実践を学ぶ。また、教材選択、学習指導案作成、模擬授業といった実践をとおして国語科の授業ができる基礎力をやしなひ、指導方法の技能を身につける。	1.国語科教育の目的や内容を学び、指導法の原理と実際を理解する。 2.教科書に掲載された教材を分析して、教材化する能力を身につける。 3.作成した指導案にしたがい、的確な発問や充実した板書により、模擬授業を進めることができる。	○	◎	◎			
国語科指導法3	講義	3	2	学習指導要領に即し、中学校国語科の教育課程の理論と実践を学ぶ。また、教材選択、学習指導案作成、模擬授業といった実践をとおして国語科の授業ができる基礎力をやしなひ、指導方法の技能を身につける。	1.国語科教育の目的や原理を学び、指導法の原理と実際を理解する。 2.教科書に掲載された論理的文章の教材等を分析して、教材化する能力を身につける。 3.作成した指導案にしたがい、的確な発問や充実した板書により、模擬授業を進めることができる。	○	◎	◎			
国語科指導法4	講義	3	2	学習指導要領に即し、中学校国語科の教育課程の理論と実践を学ぶ。また、教材選択、学習指導案作成、模擬授業といった実践をとおして国語科の授業ができる基礎力をやしなひ、指導方法の技能を身につける。	1.国語科教育の目的、原理、歴史を学び、指導法の原理と実際を理解する。 2.教科書に掲載された古典や漢文教材等を分析して、教材化する能力を身につける。 3.作成した指導案にしたがい、的確な発問や充実した板書により、模擬授業を進めることができる。	○	◎	◎			
卒業論文演習	演習	4	4	卒業論文を執筆するために必要な資料の収集・分析・解釈を行い、独自の見解を論理的な文章によって執筆する。	1.資料の収集・集計・分析に関する技法を獲得するとともに、資料を解釈して独自の見解を構築する。2.相互に批判しあうことによって、知見の完成度を高める。 3.論文の形式について知見を深める。	○	◎	○	◎	◎	
卒業論文		4	6	国文学・国語学に関する特定の問題について、先行研究を調べるとともに実証的にデータを収集し分析して、独自の知見を披露し発信する。	1.それぞれの問題意識に沿って、実証的で遺漏なき理論を構築する。 2.達意の文章によって自らの理論を発信する。	○	◎	○	◎	◎	